

「IRONMAN MONT-TRAMBLANT 2018」大会レポート

【開催地：カナダ（モントラブラン） 開催日：2018年8月19日（日）】

今村 圭孝選手

<レース結果>

距離 Swim 3.8km / Bike 180km / Run42.2km

TOTAL TIME 11:31:27

Age 35-39 DIV RANK 87位

バイク	FUJI NORCOM STRAIGHT 1.1 (株式会社アキボウ)
ウエア	Zoot
ウエットスーツ	Zoot
シューズ	Zoot SOLANA
(以上、Zoot sports)	
シューレース	Greeper Laces (株式会社 SUNNY FISH)
アイウエア	OAKLEY レーダーEV (金栄堂)
メカニック	兼子サイクル、スクアドラ
補給食	PowerGEL、TOP SPEED (有限会社パワースポーツ)
サプリメント	Astavita (アスタリール株式会社)
日焼け止め	AthleteX (株式会社アミックグループ)
タイヤチューブ	RACE A EV03 (Panaracer)

【Swim】 55:46

スイムスタートは、霧が濃く先が見えないということで予定時間を大幅に遅れてウェーブスタート。みんな体が冷えてしまっていた。やっとスタートできるとアナウンスがあり、プロからスタートし、エイジグループもスタートが始まり先頭から10秒くらい後にスタート、湖は穏やかで泳ぎやすかったが、大柄な外国人選手に挟まれて泳ぎ始める。

先頭の選手は100mくらい前にいるのが分かっていたが体力温存と決め、マイペースで泳ぐ。折り返しのブイまではあつという間で、折り返してからもそんなに時間がたっているようには感じずにスイムアップ。

【Bike】 5:22:54

バイクスタートはスイム会場からひと山越えてハイウェイに入る2周回のコース。ハイウェイは路面も綺麗で走りやすいが、ひたすらアップダウンで上手くスピードに乗れば楽に進むことができた。

後半もアップダウンがあること、後半でスピードに乗り前を追うという作戦だったので、前半は頑張りすぎずにスピードに合わせてペダルを回すだけで踏みすぎないように注意し、エイドでは水を取って少し体にかけていた。

ハイウェイの折り返しの後すぐにDHポジションをとっている腕の間に蜂が飛んできて腕を刺されてしまった。痛みはあったが腫れも赤くもなっていなかったのものでそのままやりすごす。

前半の折り返し、まだ足も残っていてこれから行くぞと気持ちを入れ替えハイウェイを進んでいると急に気持ち悪くなりもどしてしまう。後ろに選手がいなくてよかった。

その後はボトルに入れていたジェルを少し補給できたが、水も受け付けなくなってしまった。

気温も特別暑かったわけでもなく、水分もこまめに摂っていたので何が原因か分からないまま二周回目も中盤、補給してないので足に力が入らなくなり、最後のアップダウンではかなり失速してしまった。

最後の10kmをこの後のランのことを考えながら終えて、バイクフィニッシュ。

【Run】 5:06:49

ランに入ると身体が重く足も思うように動かない。始めにアップダウンがあったがとにかくきつい、その後折り返しまでは木陰の中のフラットなコースだったが、歩いたり走ったりとなんとか前に進んでいるという感じ。

今までのレースでこんなことはなかったので自分でもどうしていいか分からなかった。

エイドで飲み物を摂るがすぐに戻してしまい何も受け付けなくなってしまった。

やっとの思いでモンブランの町中に戻ってきた、これから2周目、考えられない、またあの折り返しまでいくのか、きつい。

とうとう歩いてしまう、自分の中で歩くことだけはしたくないことだったが、補給もできない状態で無理して走っても、体が壊れると思ったのでその選択しかなかった。

途中でレースをやめることだけはしなくなかったので歩いてゴールを目指す。

次第にたくさんの選手たちに抜かれ、いろいろなことを考えながら歩いた。

1キロごとに時計のアラームが鳴りラップを取っていたが、こんなに1キロがながいのかとも思った。

41キロの表示が目に入り、最後の1キロは走ろうと気合をいれ、ゆっくりと走り出しやっとうい言葉がこういう時に使うのかと思をせるほど長かった42.2キロが終わり、フィニッシュ。



今までで一番きついレースではあったが、やめたいとだけは思わなかったし、次はもっとトレーニングをしてしっかり走りたいと前向きな考えしか浮かんでこなかったのが事実で、本当にトライスロンが好きなのだと思えた。

今年のコナチャレンジは終わりましたが、来年に向けて頑張ります。

応援して頂いた方や、サプライヤー様ありがとうございました。

今村 圭孝